

観点別・編集の特色

子どもの心に語りかけ、
子どもの未来に思いをはせて…

主な観点	編集上の特色
<p>(1) 学習指導要領の「目標」「内容」等への対応は—</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">内容の範囲・程度</p>	<p>◎〈主体性と共感〉 平成23年度用図画工作教科書においては、教育基本法、学校教育法に示された義務教育の目標の達成を大きな枠組みに据え、新学習指導要領における図画工作科の「目標」である「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」を編集の基盤に置き、編集の基本方針を「発達の段階に応じて系統的に構築した題材内容とともに、授業の課題やめあて、授業の内容や方法、培いたい資質や能力を明確に整理して具体的に紙面に示し、教科書の目標を達成することを目指す」としました。</p> <p>また児童にとっては、見やすく、わかりやすく、魅力的な紙面で学びやすくすると同時に、活動の見通しと振り返りを示すことで、児童の自立を促し、「造形をとおした人間教育」の実現を図ることを心がけました。</p> <p>◎〈「つくり出す喜び」〉 学習指導要領の目標が、表現や鑑賞の幅広い活動をとおして、子どもたちがつくり出す喜びを味わうことを重視していることへの対応として、ものをつくり出す喜びや表現するたのしさを子どもたちにメッセージしました。</p> <p>全学年p. 6・7の「ゆめをかたちに」は、子どもたち一人一人がそれぞれの思いや願い、夢の実現に向けて生きていってほしいという、図画工作科としてのエールを送る意図をもつものです。ものをつくり出す喜びや表現するたのしさを味わう体験は、ものとの関係をつくり出すことや、新たな発想や意味をつくり出すことへの関心や意欲、つくり出す感覚や実現への満足感など、自分らしく「生きる」基盤となるものであるはずですが。</p> <p>◎〈精選された構造〉 図画工作科の目標を達成するために、図画工作で大切にしたいことや育てたい力を「学習のめあて」として大きく三つにくくって題材名の上に明示すると同時に、児童の自己評価をページの最後に設置し、題材の目標と学びの関連を明確にしました。</p> <p>これら「三つのめあて(育てたい力)」は、教科書p. 5の「もくじ」に、子どもたちにもわかりやすい言葉で、活動の大きな目標・めやすとして、それぞれ三つのマークで示しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 🎯 : ためしたり、見つけたりする (考える・くふうする力)。 ※試したり見つけたりしながら自分らしい造形的な表現の追求と発見をする活動。 🎨 : 形や色、方法や材料について知る (見る・かく・つくる力)。 ※形や色、方法や材料について知り、造形的なものを見方や考え方を養う活動。 💖 : 心を開いて、友だちのことを知り、材料体験をする (たのしくかかわり合う力)。 ※心を開き、材料や自分自身、友だちなどとかわり合うよさを知る活動。 <p>さらに、各題材ページには、それぞれの学習のねらいを理解しやすくするために、「学習の目標」を明確に示しました。この「学習の目標」は、「三つのめあて(育てたい力)」を受けて、具体的な授業から導き出された題材の目標と活動の内容をまとめたものです。これにより、教科書すべての題材が有機的・系統的に位置づけられています。</p> <p>なお、ページ最後に設置した児童の自己評価・振り返りは、題材の学習のめあてを受けた内容とし、児童がめあてにそった自分の学びを確認する際の視点を示すことで、「学習のめあて」と「評価」の関連を明確にしました。</p> <p>◎〈題材内容の系統化〉 学習指導要領の表現および鑑賞領域の内容構成ごとに、系統性をもたせてバランスよく配列しました。また、全学年p. 5の「もくじ」には、題材名とページ番号だけを示すのではなく、学習指導要領に示された領域内容を考慮し、主となる活動内容をそれぞれマークで示しました。</p> <p>A表現(1)の内容については「」とし、A表現(2)については、「」や「」に表す内容のうち主なものを抽出し、それぞれ「」や「」「」としました。また、B鑑賞に該当する内容については「」としました。上記の構造から全学年の題材内容を系統的に位置づけました。</p>
<p>(2) 学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取り扱い」への対応は—</p>	<p>◎〈題材の精選〉 学習指導要領の「内容」が2学年まとめて示されていることをふまえ、表紙において「上」「下」巻という表示を行うことはもとより、子どもたちの発達段階をふまえ、題材を子どもの資質や能力の育成という観点から精選し、子どもたちが生き生きと取り組めるような題材を設定しました。</p> <p>また、2学年まとめて示された「内容」の具体化にあたっては、初めの学年において取り上げる内容の程度が高くないように配慮しました。さらに、低学年で培った造形能力や態度・関心が、中・高学年へと段階的に転移・発展するように配慮しました。</p>

		<p>◎〈年間授業時間数と年間指導計画〉 中・高学年において年間授業時間数が削減されていることをふまえ、内容の整理統合の観点から、子どもたちが持てる力を十分に発揮できるような題材の精選を行うとともに、第1～3学年では現行本の題材数を確保しましたが、第4～6学年においては現行本よりもそれぞれ4題材ずつ減らしました。また、子どもたちの実態や地域・各学校の特性を生かした指導計画の編成がしやすいように、選択題材を設定することで対応しました。</p> <p>〔例〕〈選択題材数〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年㊤……1題材、1・2年㊦……2題材 ・3・4年㊤……0題材、3・4年㊦……1題材 ・5・6年㊤……4題材、5・6年㊦……4題材 <p>◎〈鑑賞活動の重視〉</p> <p>『B鑑賞』の指導については、『A表現』との関連を図るようにすること。をふまえ、鑑賞題材については子どもたちの実態に合わせた内容を新たに開発し、すべての学年に設定しました。そして鑑賞活動は、表現活動と関連して扱うことを基本としました。</p> <p>鑑賞活動が中心となる題材や学習には、題材の紙面に直接、「鑑賞」あるいは「かんしょう」と明示し、読み取りやすい紙面づくりを心がけました。また、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す「表現」と、作品などからそのよさや美しさを感じ取り、見方を深める「鑑賞」の二つの活動が相互に補い合って高まっていくことを示すために、「鑑賞」が中心的な学習である題材において、表現の要素を必ず入れるように配慮しました。また、表現題材においても、鑑賞の力が働いている場面を🔴マークで示しました。</p> <p>また、全学年のトップページ（p. 2～4）の「小さな美術館」は、発達段階に応じたテーマを設け、絵画や立体、イラストレーションなど、幅広いジャンルから作品を取り上げ、児童作品とともに掲載しました。表現することのたのしさやおもしろさに気づく心を大切にしてほしいとの願いをこめています。</p> <p>◎〈地域の美術館などの利用・連携〉</p> <p>『B鑑賞』の指導にあたっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。をふまえ、各地の美術館などでの取り組みを「みんなのギャラリー」（全学年p. 38～40）として扱いました。その際、美術館だけではなく、それぞれの地域に密着した形で行われている行事やお祭り、伝統工芸などと合わせたような取り組みを、「みんなでいっしょに」「教室を飛び出して」「日本の祭り」「伝統の技を学ぶ」などのテーマで紹介することにより、児童が自分たちの住む地域に目を向け、身近な地域の中から児童や学校の実態に応じて活動できるように配慮しました。</p> <p>◎〈他教科や幼稚園教育との関連、中学校への橋渡し〉 他教科との関連を一層進めることが示されていることをふまえ、低学年においては、生活科との関連を図るとともに、身体性を伴う造形活動や、身近な自然や友だちなどのかかわり合いを大切にする題材を多く設定し、幼稚園・保育園での体験をもとに活動が展開できるように工夫しました。</p> <p>また、中・高学年においては「総合的な学習の時間」などとの関連を視野に入れて、上記「みんなのギャラリー」全学年p. 38～40）では各地の行事や国際理解の一端を紹介しました。</p> <p>さらに、高学年においては、中学校「美術」への橋渡しを視野に入れ、水墨画の実践や鑑賞（5・6年下p. 20・21「墨のうた」）、屏風絵の鑑賞（5・6年下p. 2・3「小さな美術館」）、浮世絵の鑑賞（5・6年上p. 20・21「見つけたことを話してみよう」）、形や色のとらえ方の学習内容（5・6年下「パレットコーナー」）などを設定しました。</p> <p>◎〈版に表す経験や焼成する経験〉 「児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。」をふまえ、発達段階に応じて版に表す経験ができる題材と焼成する経験ができる題材を、全学年にわたって網羅しました。</p>
学習指導の効果と配慮	基礎的・基本的事項の扱いは—	<p>◎〈体験的・発見的に〉 各学年で習得しておくべき基礎的・基本的事項を図解や写真でわかりやすく示しましたが、指示的に陥らぬよう、子どもたちの表現に即しながら創造的に習得できるように配慮しました。</p> <p>◎〈「道具箱」「パレットコーナー」に〉 子どもたちが図画工作科の活動で使う道具を発達段階に即して取り上げ、その安全で正しい使い方、効果的な使い方などを、全学年p. 40・41の「道具箱」にまとめて掲載しました。また、形と色については全学年p. 41・42に「パレットコーナー」として、発達段階に応じた内容をまとめて示しました。系統的に配列されたこの内容によって、表現への意欲と技能を自主的に高めていけるようにしました。</p>
	指導の効率化は—	<p>◎〈地域性への配慮〉 地域によって学習差が生じないように、題材・材料・用具などを十分考慮しながら、地域の特性が発揮できるように心がけました。</p> <p>〔例〕1・2年下p. 24・25「ちきゅうからのおくりもので」 3・4年上p. 20・21「いつもの場所で…」 5・6年下p. 10・11「わたしのお気に入りの場所」</p>
	児童の共感を呼ぶか—	<p>◎〈視覚から心へ〉 子どもたちの制作・活動情景写真やイラストレーションを豊富に使い、各題材ページのレイアウトを工夫して、表現意欲を呼び起こすことを心がけました。また、題材と子どもたちとの出会わせ方を工夫し、指示的な導入から再現的な活動を押しつけることを極力避け、子どもたち一人一人が自主的・主体的に活動にかかわって創造活動が展開できるようにしました。</p>

		◎〈文章から心へ〉 題材名・主文・解説文など、すべての文章を一新し、学習内容をイメージしやすく、しかもリズムとテンポのある表現で展開しました。
	題材の魅力は—	◎〈意外性と新鮮さ〉 指示的・再現的表現に陥ることからの克服を基底に置き、現代に生きる子どもたちの感性を呼び起こす題材の開発に心がけました。 ◎〈生活から造形へ〉 「遊びから造形へ」、そして「造形から遊び(生活)へ」を意図し、図画工作科学習が子どもの生活へと移行し、発展するような題材を精選しました。
編 成 度	教材の系統性への配慮は—	◎〈積み重ねと移行〉 選りすぐった題材を網羅するとともに、各学年の発達段階に対応した系統性を、心情・技法・関心・意欲の視点で構築し、有効な積み重ねと移行が図れるように意図しました。 [例]〈観察や経験にかかわる絵画題材の系統〉 1・2年上 p. 8・9 「すきなもの いっぱい」 1・2年下 p. 8・9 「すきなこと なあに」 3・4年上 p. 12 「わたしの休み時間」 3・4年下 p. 14・15 「木々を見つめて」 5・6年上 p. 8・9 「季節を感じて」 5・6年下 p. 10・11 「わたしのお気に入りの場所」
	内容の配列や順序性の工夫は—	◎〈実践的配列〉 「自分の考えや感じ方を大切にする表現の迫り」をテーマに、全学年とも年間指導計画にそった、いわゆる「カリキュラム順」の題材配列にしました。やさしいものから、より難しいものへと、難易度を考慮して順序性を整えました。また、子どもたちの実態や地域、各学校の特性を生かした指導計画の編成がしやすいように、選択題材を随時、設定して対応しました。
	内容の分量は適切か—	◎〈軽重のバランス〉 低・中・高学年に応じて、題材の内容と分量を整備しました。学習指導要領に示されている年間授業時数をふまえ、題材の軽重のバランスを整えました。
	文章表現は—	◎〈題材名〉 活動内容の事実を紋切り型に表示することから脱却し、子どもの心に響き、しかも内容が豊かにイメージされるように工夫しました。各学年の発達段階に対応しつつ、新鮮な命名を心がけました。 ◎〈主文〉 子どもの言語感覚を大切にして、子どもの心に語りかけ、題材内容や方法をイメージさせて意欲的に課題をつかみ取れるように練り上げました。 ◎〈解説文〉 個々の作品の解説文(子どものつぶやき)は、全国の実践レポートから子どものなまの声を取材し、心情面から作品理解に役立つように配慮するとともに、作品制作や活動にあたっての材料や技法についての工夫を取り上げることで、教科書に掲載した意図を伝えることを重視しました。
表 現 の 工 夫	写真・イラストレーションは—	◎〈視覚的に〉 親しみを増し、イメージをふくらませ、より正確に習得できるように、写真やイラストレーションをおこみしました。とりわけ造形遊びは、視覚的に展開するように考慮しました。制作の手順、材料・用具の使い方、技法の手だてなどは読み取りやすい視点から撮影し、鮮明で、かつ意図が明確なものを厳選しました。
	図解は—	◎〈明確に〉 制作過程図や材料・用具の扱い図など、正確さを必要とするものは子どもの視点に立ち、細心の注意を払うとともに、図解を読み取る能力をつけるために、学年に相応した図を系統的に配置しました。
	レイアウトは—	◎〈明確・斬新に〉 子どもにとって最も身近な美術書としての位置づけをし、全ページとも各題材・内容をより明確にし、しかも感動的に、たのしさが読み取れるように工夫しました。 ◎〈学習の流れとポイント〉 各題材を個性的に展開し、一人一人の子どもが表現活動に見通しを持ち、主体的・自発的・発見的に造形活動が進められるように、文章・図解・情景写真・作品例などを配置しました。
造 本 ・ 体 裁	判型は—	◎〈大判化〉 教科書の判型を、従来のB5判からA4判に大判化しました。これにより、児童作品を大きく効果的に示すことで、児童の関心や意欲を高めると同時に、表現のために必要な情報を増やし、児童が進んで表現や鑑賞活動に取り組めるようにしました。
	印刷は—	◎〈用紙〉 見やすさ、印刷適正の観点から、数多くの用紙を使って試験し、その中から最適のコート紙を厳選しました。また、今日的な環境問題に配慮し、すべて再生紙を使用するとともに、インキは大豆インキを使用しました。 ◎〈鮮明さ〉 作品のもつ微妙なニュアンスや質感などを忠実に再現するために、最新の印刷技術を駆使し、かつ入念な色校正に努めました。
	製本は—	◎〈堅牢さ〉 開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮して、ミシン綴じ、見返し付きとし、表紙はビニール加工することで、長期の使用に耐え得る製本としました。また、裏表紙には、児童の学校名・学年・組・氏名などを記入できる部分を設けるとともに、グラビア印刷することで、記入にあたって、にじみなどができないように工夫しました。
	装丁は—	◎〈表表紙〉 子どもたちの息づかいが聞こえるような児童絵画作品を紙面いっぱいに掲載しましたが、いずれも本文題材において取り上げたテーマの作品としました。また、子どもたちの心に響く書名をつけることで、図画工作のたのしさ、すばらしさを強く訴えました。書名を形づくっている材料はいずれも本文題材で取り上げた材料を使用しました。 ◎〈裏表紙〉 全学年とも「つながる造形」をテーマに、子どもたちの身近な場面で出会うさまざまな事柄が形や色という造形要素につながっていたり、生かされていたりすることを取り上げました

〈資料〉

1. ページ数(AB判:天地 257×左右 210 cm)

	1・2年 ^上	1・2年 ^下	3・4年 ^上	3・4年 ^下	5・6年 ^上	5・6年 ^下	合 計
総ページ数	44	44	44	44	44	44	264
(1) 材料や場所などをもとにした造形遊びのページ数	6	6	4	4	4	2	26
(2) 絵に表す活動のページ数	10	11	11	12	11	12	67
(3) 立体に表す活動のページ数	3	3	3	4	3	3	19
(4) 工作に表す活動のページ数	11	10	11	9	10	11	62
(5) 鑑賞活動のページ数	10	10	11	11	12	12	66
(6) 材料や用具の扱いに関する内容のページ数	3	3	3	3	3	3	18
(7) もくじ	1	1	1	1	1	1	6

※ (4) には、「ひらめきコーナー」(p.18・19)を含める。(5) には、表紙(表・裏)、「小さな美術館」(p.2~4)、「ゆめをかたち」(p.6・7)、「みんなのギャラリー」(p.38~40)を含める。(6) は、「道具箱」と「パレットコーナー」を配当する。

2. 題材数

	1・2年 ^上	1・2年 ^下	3・4年 ^上	3・4年 ^下	5・6年 ^上	5・6年 ^下	合 計
総題材数	31	32	29	25	26	24	167
(1) 材料や場所などをもとにした造形遊びの題材数	5	5	3	3	3	2	21
(2) 絵に表す活動の題材数	8	9	7	7	7	6	44
(3) 立体に表す活動の題材数	2	2	2	2	2	2	12
(4) 工作に表す活動の題材数	8	8	9	5	6	6	42
(5) 鑑賞活動の題材数	6	6	6	6	6	6	36
(6) 材料や用具の扱いに関する内容の題材数	2	2	2	2	2	2	12

※ (4) には、「ひらめきコーナー」(p.18・19)を含める。(5) には、表紙(表・裏)、「小さな美術館」(p.2~4)、「ゆめをかたち」(p.6・7)、「みんなのギャラリー」(p.38~40)を含める。(6) は、「道具箱」と「パレットコーナー」を配当する。

3. 紙面構成の扱い

	1・2年 ^上	1・2年 ^下	3・4年 ^上	3・4年 ^下	5・6年 ^上	5・6年 ^下	合 計
(1) 1ページ展開の題材数	19	21	17	9	10	9	85
(2) 2ページ展開の題材数	9	8	10	14	14	14	69
(3) 3ページ展開の題材数	2	2	2	2	2	2	12

4. 作品数など

	1・2年 ^上	1・2年 ^下	3・4年 ^上	3・4年 ^下	5・6年 ^上	5・6年 ^下	合 計
(1) 児童作品数	121	109	117	121	110	147	725
(2) 作家作品数							
ア. 日本人作家作品数	6	4	7	13	7	4	41
イ. 外国人作家作品数	1	2	4	4	4	2	17
(3) その他の作品数(文化財・民芸品など)	10	7	9	7	5	8	46
(4) 制作過程・表現技法などの写真や図版							
ア. 写真	145	127	118	115	126	113	744
イ. 図版	31	34	35	36	31	18	185
※半ページ以上にわたる大きさの作品数	7	9	9	6	7	8	46
※安全についての記載箇所数	7	5	6	7	2	1	28